

GALLERY ギャラリー



「花盛り」ちぎり絵
藤井時子さん(成羽町成羽)



「大国主」油絵
仲山千歳さん(落合町近似)

ミニ★トピックス



『春の女神 ギフチョウ』
加賀博人さん宅にて撮影
(成羽町下原)

<解説>

日本固有種で、羽を広げても約5センチの小さいアゲハチョウ。環境省のレッドリストで絶滅危惧種Ⅱ類に分類されています。羽は黒とクリーム色のまだらで後ろ羽の深紅の紋が華やか。

繁殖を行っている加賀さんは、「今年は4月下旬まで見られそうなので、気軽に見に来てほしい。ギフチョウの食草「カンアオイ」が不足しているので提供してほしい」と話されます。

ご覧になりたい人は☎@2367(加賀さん)へお問い合わせください。



「サラジーン“アイスカスケード”」蘭
織田勲さん(有漢町有漢)



「昭和浪漫成羽」色鉛筆画
井上明彦さん(備中町平川)

作品の募集について

自作の川柳、短歌、絵手紙、町の風景写真、絵画など

- 未発表の作品に限ります。
- 一人一品とします。
- 絵画は、その写真をお送りください。
- 住所・氏名・電話番号・年齢を明記のうえ、お送りください。

※締め切り 掲載号の前月の末日(必着)

【送り先】〒716-8501(住所不要)

高梁市役所企画課公聴広報係

※応募多数の場合は、紙面に掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
※提供いただいた写真等は返却できません。

☎企画課公聴広報係 ☎@0210

Eメール: kikaku@city.takahashi.okayama.jp

市民のページ

文芸たかはし

(敬称略)

短歌

ねこ柳水面に映えて春うらら桜前線南より来る

梅野 八郎(松山)
打つ吾の心のあり處そのままに音色の変わる仏前の鐘

小野はる恵(原田南町)
肩よせて酒酌みながら喜寿祝ふ友と語らう今が青春

亀石恵美子(川上町仁賀)
武家屋敷に方谷広めし柿の木が二百年過ぎ来し街を見廻す

坂田 昭夫(松原町大津寄)
早春ののどけき光身に浴びて老女は縁に新聞を読む

平 初音(高倉町田井)
苦しきことかずかずあれど忍と書きそつと呑み込むそれも人生

西井百合子(横町)
農民に生れ鋤もち文を読み改革恩師山田方谷

原田 由き(高倉町飯部)
俳句

波の花家より高く舞い上がる
平松 幾代(長寿園内)

菩提寺へあの坂が好き野梅今
三村 節子(伊賀町)

山陰に残雪見せて峡の里
長原 茂子(備中町西野)

川柳
年令に差はあれど老い行く身をば忘れるデイセンター
川上 武夫(川上町三沢)

ランドセル防具をつけて登下校
藤井タツ子(備中町西山)

咲く花に今年も迎える嫁の親
ラブレター弾む心に封を切る
母の住む過疎へ彼岸の墓参り
中島 清市(成羽町出身)

地名をあるく

六羽山

成羽町に「羽山」という地名があります。東は宇治町と落合町福地、南は成羽町成羽の枝地区、西北には成羽町羽根があります。中央には島木川が、隆起準平原といわれる吉備高原の小起伏面を侵食して流れ、川の谷壁は垂直に切り立つ絶壁で石灰岩の渓谷となり、羽山峡、天竜峡などの峡谷は県立自然公園に指定されています。「羽山」の集落は、この渓谷の上方海拔三五〇〜四五〇mの急峻な斜面に点在し、平地に乏しい地域となっています。

また、古くから吹屋往来が成羽から枝を通り「羽山」の尾根伝いに宇治の後谷を経て吹屋に至る近世陸路輸送の主要街道としての役割を果たしていました。この道は「ト卜道」といわれた道で、瀬戸内海の魚貝類などを吹屋へ運ぶ往来でもありました。

羽山の「空」へ登ると山砂利層といわれる砂礫層(粗粒礫層)が露出していて、風化した赤色層の中に石灰岩などの巨礫が多く見られ、地形の複雑さを示しています。

戦国時代から江戸時代初め頃に「羽山」は羽根村の枝村のようになっていたらしく、「成羽八幡神社旧記」(成羽町史)の記述の中に『羽根村の内羽山村に八幡神社の幡を持ち帰り「幡之八幡」と称した。そして、祭礼の日には幡竹二本を持って行き供えた』などと書かれています。「羽山村」は毛利の支配から慶長五年(二六〇〇)幕府領、元和三年(二六一七)成羽藩領、

寛永一九年(二六四二)再び幕府領となり、万治元年(一六五八)旗本山崎領(のち成羽藩領)となつて幕末を迎えています。慶長三年羽山村名寄帳(村の土地台帳)(成羽町史)によると、高五二石余と書かれ、江戸前期の正保郷帳(正保二・三年頃)にも五二石余とあつて、江戸後期の嘉永頃(一八四八〜五三)の「備中誌」には「羽山村、高一六六石余、家数三二軒、人数一六七人、村内惣廻り二里二町三一間、神社に三体妙見宮一、葉師堂一、枝郷に所原あり、寛文年間(一六六一〜七三)修造の新池がある」などと紹介されています。現在、天御中主の神、高御産巢日の神、神産巢日の神の「造化三神」を祀る天津神社があり、妙見信仰と習合して、古くは三体妙見宮ともいわれました。ほかに、山の神の大山祇の命を山の中で祀つた山神社などがあります。

「羽山」という地名は、各地にあります。葉山、羽山、麓山、端山などの漢字が充てられることが多いのですが、「端山」から変化した地名で、成羽の里に近い端の山を意味する地名なのです。すなわち奥山に對し人里近くの浅い山を意味するのです。今でも自然神信仰の面影が残つていて、里に近い山(端山)を支配する神が、春は山から里に出て田の神となり、秋の収穫がすむと山に帰つて山の神となる。その山の神の支配する山が「羽山」(端山)で、天津神社に残る妙見信仰や山神社(山の神)の信仰は、今でも山の神の信仰の面影を残しているのです。

(文・松前俊洋さん)



羽山「空」地区からの遠望